



武田社長定例記者会見概要

9月30日午後3時から、武田社長による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

<編成関連>

上期の視聴率は、全日5位、G帯4位、P帯3位。全体では前年比で若干の上昇傾向にあり、好調な金曜以外のGP帯にも手応えが感じられるようになってきた。特にバラエティは、磐石の金曜日に加え火、水、木、土曜日の数字が上向いてきた。残念なのは朝ベルトが低迷していることだが、下期の重点項目として努力して欲しいと思っている。

ドラマは4月期の『天皇の料理番』がヒットし、『マザー・ゲーム』もF層の支持を集める成果を残すことができた。7月期はヒットが出ず苦戦したが、単発企画の『レッドクロス』を8月に2夜連続で放送した。内容が重厚で壮大なスケールだったとの評価をいただいた。

8月の『世界陸上北京』は、時差一時間の恩恵もありライブ中継で大いに楽しんでいただけたと思っている。全体平均視聴率が過去10回の世界陸上の中で歴代3位で、P帯平均でも時差の近いテグ大会を上回る結果を残すことができた。世界のトップアスリートの走る、跳ぶ、投げるといった感動を伝えることができた。

10月改編は、小幅にとどめた。GP帯では木曜日のニンゲン観察バラエティ『モニタリング』を2時間にしたが、下期はレギュラー編成重視の方針で視聴率アップを図っていきたい。ドラマでは池井戸潤さん原作の日曜劇場『下町ロケット』をはじめとするラインナップに大変期待している。

<営業関連>

上期のタイムセールスは前年をやや下回る見通し。『世界陸上北京』が過去10回の大会の中で2番目のセールスを達成して売り上げに大きく貢献したが、『サッカーワールドカップブラジル大会』や『アジア大会』のあった前年には及ばなかった。ローカルタイムは前年を若干上回る見込み。スポットセールスは前年を若干下回った。

下期の見通しは、ネットタイム、ローカルタイムともにほぼ前年並みとなりそうだ。スポットセールスは、見通しが不透明ながら、10月、11月以降は割りといいかなあという感触はある。

<事業関連>

10月26日サービス開始の「TVer」に関連するが、TBS オンデマンド無料見逃しキャンペーンを、10月からは「TBS FREE」という名称にして本格的なサービスを開始する。「TBS FREE」は番組数を大幅に拡充(15番組)すると同時に、TVerとも連動する。

ミュージカル「プリンス・オブ・ブロードウェイ」を10月に開幕する。演出家として「オペラ座の怪人」「ウェストサイドストーリー」を世に送り出し、トミー賞を21回も受けた巨匠ハロルド・プリンス氏の新作を世界で初めて上演する。プリンス氏の声は市村正親氏が演じる。

TBSテレビ60周年特別企画として、10月16日から森アーツセンターギャラリーで「国立カイロ博物館所蔵 黄金のファラオと大ピラミッド展」を開催する。選り抜かれた100点あまりのエジプトの至宝展示の他、ギザの3大ピラミッドや荘厳なルクソール神殿を撮影した高精細4Kシアターが見ものとなっている。

「SASUKE」の海外現地版では、新たに中国、インドネシアとの契約を締結した。中国では視聴率上位の衛星放送チャンネルJSBCで放送が始まり、インドネシアでは民放最大手のRCTIで12月に収録が予定されている。また、今年6月放送開始のベトナムVTVでは視聴率好調で、シーズン2の制作が決定した。

<ラジオ関連> TBSR&C 入江社長

8月聴取率調査の結果TBSラジオは85期連続(14年2ヶ月)首位をキープ。しかし数字は前回から下がり、全局SIUもダウンした。放送権の関係でジャイアンツ戦が中継できなかったのが不利な材料の一つとなった。先の大雨洪水災害に際しては各ワイド番組内で随時報道するなど柔軟に対応した。4月改編での生ワイド化の方針が生かされたもので、緊急時にリスナーが必要とする情報を積極的に伝えるというラジオの役割を引き続き果たしていきたい。

秋改編は9月28日スタート。改編率は15.9%とほぼ例年通り。ポイントは24年続いた永六輔さんの『土曜ワイド』終了と月曜夕方の新番組『六輔七転八倒九十分』の開始、そして、漫才コンビ・ナイツによる『土曜ワイドラジオ TOKYO ナイツのちゃきちゃき大放送』のスタート。

営業概況、8月はタイムスポットとも前年実績に届かず。9月も厳しく、上期着地は収入面では減収だが費用コントロールはできており、減収増益の見込み。

FM補完放送に関しては、10月に試験電波を出し、12月中の放送開始を予定している。ワイドFMスタートに当たりTBSラジオは「AM954」に「FM90.5」を併記した新しいロゴマークを採用し7月から漸次使用を開始している。

以上